



2007.12.26  
【第12号】

これはHTML形式  
のMAILです。  
オンラインで無い場合  
は画像が表示され  
ない可能性があります。

HOME PAGE

SCHEDULE

EVENTs

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

## INDEX

- ① 越年まつりのお知らせと参加者募集
- ② 19年度ふるさとの会大阪研修
- ③ あだち若者サポートステーション セミナーレポート
- ④ 東駒形荘クリスマス会
- ⑤ 2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練参加報告
- ⑥ 生活再建・再犯防止相談事業を準備中！

### ① 越年まつりのお知らせと参加者募集

ボランティアサークルふるさとの会です！

さて皆さん、「こたつにみかんで紅白」という年末もちろん魅力的ですが、今年は趣向を変えて「山谷」でボランティア活動に参加してみたいか？（「山谷って何？」という方こそ、一度足を運んでみてください！）

ふるさとの会恒例“越年冬祭り”の開催までのこりわずかになりました。

今年は例年にも増して越年まつりを盛り上げようとスタッフ一堂準備をしております。そのためにも多くのボランティアさんのお力が必要です！ともに越年冬祭りを盛り上げていただけるボランティアさんを大・大募集！さらに、資金面でのご協力、食材や衣類などの物資カンパも大変有難いです。どうぞよろしく願いいたします。それでは、皆様のご参加をお待ちしております！

<ボランティア内容>

- \* あたたかい食事づくり(毎日違うメニューです！料理経験は問いません)
- \* 炊き出し配食&路上生活者の方々との交流
- \* 路上生活者ききとり調査(アンケートをとります)

<活動期間>

12月29日から1月3日まで 午前8時30分～午後4時半(1日だけの参加OK)  
朝8:30に(財)城北労働・福祉センター分館敬老室集合(参加時間応相談)  
※12月28日と1月4日も準備と後片付けのボランティアさんを募集しています。  
連絡先:ボランティアサークルふるさとの会 (担当:町田/馬場)  
TEL:03-3801-0377 FAX:03-3801-0881  
メールアドレス:[boranteahurusato@gmail.com](mailto:boranteahurusato@gmail.com)

<カンパ物資送付先>

荒川区南千住3-3-9 (財)城北福祉センター内 敬老室 町田宛  
ふるさとの会HP:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

※通常は日曜日に、敬老室(山谷高齢者のための休憩所)の開放&行事の開催を行っています。

<カンパ振込み先> 郵便振替 00260-5-63218 ふるさとの会



### ② 19年度ふるさとの会大阪研修

11月13日から15日の2泊3日の日程で“19年度のふるさとの会大阪研修”を行いました。  
参加職員は引率者1名を含む7名でした。事務局、宿泊所・自立援助事業部、就労支援事業部、地域生活支援事業部の各事業所からそれぞれ1年以上3年前後のふるさとの会キャリアを持つ職員が参加しました。  
山谷での日常業務を離れいざ大阪へ！ふるさとの会職員となって初めて聞いた“釜ヶ崎”という地名、始め

の頃は其処は何かしら恐ろしげな所から、と思いつつやがて聞きなれた場所であり親しみを感じる所、興味深い所となったこの1年数ヶ月。その釜ヶ崎をこの目で見る事は私ならずも参加者全員の目的でした。

主な見学予定地は大坂入りした初日の住吉公園、二日目の早朝の西成センターの寄せ場見学、社会福祉法人日本ヘレンケラー財団救護施設今池平和寮、3日目の釜ヶ崎支援機構でしたがご案内いただいた方々のご好意により釜ヶ崎・あいりん地区を殆ど網羅するほどのすべての場所、あらゆる支援団体をご案内いただきました。

紙芝居劇・むすび、社会福祉法人聖フランシスコ会釜ヶ崎ふるさとの家、財団法人西成労働福祉センター、大阪ホームレス就業支援センター運営協議会「あいあいサポートセンター」、ウェルフェアマンションおはな、救護施設「三徳寮」、三角公園など、など。

参加職員はそれぞれの業務を背景として見る事、聞くこと、感じる事、質問することなど様々で時として目を丸くし驚き、時として「うーん」、と頷き考え深げになりそして時として目をキラリと輝かせ「それは！、、、」、と質問をするなど、NPO職員の本領発揮（?!）の連続でした。それはホテルに帰ってからも興奮冷めやらずに深夜までホテル一室に集まりあれこれ日頃の業務その他おしゃべりなどつきませんでした。

釜ヶ崎・あいりん地区は山谷とはまた違う空気やスケールで、まさに日本経済の発展を支えた人々の街であることを今も語っていることを今回の研修で実感させられ、ホームレス支援団体としての活動の重さを再認識させられました。

今回の研修の参加者であるホテル三晃館長の田辺さんに研修の感想を聞きました。

『「他」を知る事で、自分を相対化できるということを再確認しました。忙しい毎日の中でつつい「ホテル三晃」の「今そこにある危機・問題・課題」にどっぷり浸かりもがき、それは自分を成長させてくれているに違いがないのですが、「外の空気」を思い切り吸い込むことができ元気が出た気がするのはなぜだろう。』

他を見ること、感じることで自分への問いかけがありまたフレッシュなスタート台に立つことができた今回の研修、時が経ち振り返る時、何かしらの前進があることを期待し今回の研修を貴重なものとし日々の活動に生かして行けたらと思っています。

見学させていただいた所ではアポイントもなく突然の訪問であるにも関わらずご丁寧な案内と説明をいただきました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

(佐藤信子)



聞き逃さないお話の連続に誰もがシリアスな表情



盛りだくさんのプログラムとその手法に、新たな驚きと関心！

### ③ あだち若者サポートステーション セミナーレポート

今月の5日、厚生労働省、足立区委託の若者支援事業「AYSS(あだち若者サポートステーション)」(NPO 青少年自立支援センター運営)の主催するセミナー『達人の舞台ウラ』の取材をさせていただきました。

会場は北千住の東京芸術センター8F、AYSS内のセミナールームです。この会議室大の部屋に机が円卓状に並べられ、司会者、本日の講師、参加者がそれを取り囲みます。この日の参加者は5名でした。

『達人の舞台ウラ』は職業的視野を広げたい、多様な働き方を知りたいという若者を対象に、各分野の一線で活躍する職業人にその経験を語ってもらうセミナーで、これまでIT関係からK-1ファイター(!)までと多種多様な「達人」が講師として登場しているようです。この日は当法人の就労支援事業の責任者が「達人」として呼び頂きました。

このセミナー特徴は、できる限り定員は少なくして、参加者が個々人の疑問や質問を率直に口に出せるようなアウトホームな雰囲気を出しているとのこと。このことは会場の円卓に象徴されていたように思います。そして実際に司会の山崎さんの柔らかな、しかし要所をはずさない司会進行のもと、参加者からは率直な質問が次々と出されていました。

以下印象的なやり取りを抜粋してみます。

司会「いまのお仕事のモチベーションというと、どのようなことですか」。

達人「なかなか達成感を得るのは難しい仕事なんです、そういう中でたまにイライラみたいなもの、これを一つ一つ解決していこうとすることが逆にモチベーションになるんですよ」。「あと、朝通勤するとき(仕事場の)山谷地域を自転車で通るんですが、その時顔見知りの利用者の方が挨拶してくれて、そんなことも励みになります」。

参加者「支援する側に燃え尽きてしまうようなことはありますか」。

達人「確かにつらい部分もある仕事なので、そうになってしまう職員もいます。ただ、仕事というものには苦労は確実にあるもので、仕事をする中に納得できないところがあれば自分からうまくはたらけるように、工夫なり努力なりすることが大切だと思います」。



このセミナーとあわせて、AYSSでは参加者が実際に達人の職場に行ってみる「職場体験」というプログラムも用意されていました。この「セミナー受講」、「職場体験」参加という流れの中から、直接の雇用に結びついた例もあるそうです。ちなみに、この日のセミナーからも当法人に興味をお持ちになり「職場体験」に参加された方がいらっしゃいました。この度は大変貴重な繋がりを得ることができたと思います。  
(辻 真)



円卓に参加者が座るセミナー風景



熱くAYSSIについて語る山崎さん

#### ④ 東駒形荘クリスマス会

12月21日、毎年恒例となっているクリスマス会を行いました。  
イベント内容としては、クリスマス仮装、クリスマスプレゼント、感動する話の朗読会、メインイベントとしてはホットプレートでお好み焼き、焼きそば作りを行いました。  
利用者さんと一緒に作り、利用者さんにへらでお好み焼きをひっくり返していただきました。簡単なようで難しい作業であり、成功した時にはまわりから拍手喝さいで、皆様の笑顔がたえませんでした。一緒に作るという楽しみがあるからこそ、味も格別でした。  
また、お好み焼き自体、何年ぶりに食べたという方が多く「うまい、うまい」と言った声がよく聞こえました。デザートにフルーツポンチ、クリスマスケーキも喜ばれていました。  
利用者さんの声としては「うまかった」「楽しかった」「こんなイベントが毎月あればいいのにな～」といったうれしそうな声や、「クリスマスはまた来年か～。1年後か～」といった寂しそうな声も聞かれました。  
東駒形荘では認知症予防合宿など、認知症予防のためのイベントを取り入れています。今回のクリスマス会も楽しい思い出と、自分たちで作るといった自発性の活性化になっており、いきがいを作る事ができたと考えられます。今後も認知症予防となるイベントを続けていきたいと思います。  
(榎澤正彦)



部屋中がクリスマスの飾り付けで、気持ちも盛り上がります



第一弾の焼きそばはあっという間に皆のおなかに消え、お好み焼き、ケーキとお楽しみが続きます。

#### ⑤ 2007年首都圏統一帰宅困難者対応訓練参加報告

大地震が起きた場合を想定し、多くの方々とネットワークを日頃からつくり、災害時に備えての訓練を行う目的として始められた東京災害ボランティアネットワーク主催の『帰宅困難者対応訓練』が11月17日行われました。  
今年で同訓練には4回目の参加となるふるさとのは、全4コースの中の1つ千葉コースの横網町公園にエイドステーションを設営し、ステーション設置訓練、情報発信訓練を行うと共に、徒歩帰宅訓練参加者に休憩所、お水、乾パンの提供、コース案内などを行いました。  
千葉コースはスタート地点の日比谷公園を出発し、荒川にかかる平井大橋を渡り、千葉市の市川市立大洲

防災公園までの約20.5Km。徒歩訓練総参加人数は484名、そして内ゴールまで辿りついた人数は342名でした。

朝10時に出発した参加者が7 Kmの道のりを歩き、横網町公園につくのが昼前後となったこともあり、“お疲れ様です！乾パندوقぞ！”、のふるさとの会職員の声に用意された菓子パンは大人気、そして山のように積んだ乾パンも次々と無くなって行きました。

災害や困難を目の前にした時、一人の個人として支援の手を差し伸べる事、そしてお互いに励ましあうこと、その様な場に触れることを目的として、ふるさとの会は同訓練に参加をしています。そのようなことからふるさとの会は、元路上生活経験者の方々といろんなイベントを行っています。今回も5名の方々が職員と共にテキパキとスムーズ且つ的確な活動をし、“いざとなったら頼りになる彼ら”の印象を再度与えてくれました。

沿道でコース案内に立つSさんはかつて路上生活経験者で、今回初めてこの訓練に参加しました。しばし彼の側に立つと、、、年配のご婦人2人がSさんに“第一ホテルはどこかしら？”と聞きます。“この先を真っ直ぐ行った左側ですよ、ここから5分位かなあ”、と丁寧に答えています。“立っていると色々な人から道とか聞かれるんだよね”、とSさん。今日は沿道の案内をしていただきましたが、いづどんなお仕事でも悠々・黙々と何気もなくやりのけてくれます。それはSさんだけに限らず他のかつての路上生活経験者・現在ふるさとの会の就労メンバーの方々です。

午後1時半を過ぎた頃しんがり隊が公園を通り過ぎ“おつかれさまです！”と声を掛け合い、皆安堵とさわやかな気分を感じつつテントをしまい始めました。

さて、徒歩帰宅訓練参加者にとって横網町公園ASは良きオアシスとなったのでしょうか？今回の訓練の窓口であり、情報通信担当者であった新行内さんに感想を聞きました。

『大勢の人をこちらが意図した経路に誘導すること・歩行訓練参加者に的確な情報発信をすることは想像以上に難しいと感じました。さらに、有事の際は訓練時とは比較にならないくらい混乱状態になっていることを考えると、はっきりと目立つ案内表示や、スタッフによる強い誘導が必要であると思いました。そして、他のエイドステーションの運営団体と話し合いの場を持ち、連携できたことも非常に貴重な体験でした。』

実際の災害時の対応は想像するも難しくはあるものの、訓練での反省点を踏まえた上で、いざという時、スムーズ且つ効率的な活動ができるよう、今後も各団体との情報交換・連携に努めたいと思います。

今回の取材の機会を得て初めて私は横網町公園を訪れ知りましたが、ここは関東大震災時、最も多くの方々が命を無くされた所としてその方々の霊を奉るための東京都慰霊堂、そして関東大震災時の記録写真や被害資料などが展示してある復興記念館、そして遭難児童弔魂像、幽冥鐘がある所です。

参加者の中には復興館に立ち寄りまた歩き出す方、復興館の横の展示品を写真に収め友人と語り合う方、そしてその側のベンチでおむすびをほお張る年配のカップル、砂場では今回の訓練とは関係のない親子連れが遊んでいたりと、多くの方々の風景をこの公園から眺めることができました。

惨事を振り返ること、其処から習うこと、学ぶこと、そして今できることを行いつつ形を持って担い継承することの大切さを実感しました。そしてそれは一人ひとりが集まって大きな力となることを感じました。

(佐藤信子)



『乾パندوقぞ！』『あ、ありがとうございます！』



給水、乾パンの配布とともに情報支援や励ましもエイドステーションの大切な役目です

#### ⑥ 生活再建・再犯防止相談事業を準備中！

現在、ふるさとの会企画室と福祉行政管理職を経験された方や保健師資格を持つボランティア数名が中心となって、身寄りが無く山谷を帰住先として戻って来た「触法障害者」へ支援サービスを提供することで、路上生活状態あるいは再犯を防ぐことを目的とした、新規事業を計画しております。

継続的に法務省矯正局・保護局や東京保護観察所、(株)大林組とも協議を行い、また山岡義典教授(法政大学現代福祉学部)や山本讓司氏(元衆議院議員)、東京更生保護施設連盟青年部会の方々からも助言や協力を受けながら、来春開設を目標に準備を進めています。

さらに矯正行政、更生保護に関しても定例的な勉強会も開催しております。

11月28日「知的障害者のケア」講師:的場由木氏 知的障害者更生施設勤務 保健師

12月 8日「司法福祉について」講師:北澤信次氏 日本司法福祉学会 常任理事

12月26日「保護司の仕事」講師:田中玲子氏 中野区保護司会 保護司

1月のスケジュールは未定ですが、月一度のペースで継続的な勉強会を開催予定です。

(秋山雅彦)

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会  
〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6  
TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950